

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族に関する基礎知識 1
3. 家族に関する基礎知識 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族
8. 子どもの養育と家族関係 1
9. 子どもの養育と家族関係 2
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変化と家族関係
15. まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会人権同和教育室指導主事			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティ-I(知性)を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK(思いやり)の諸能力を生かします。

授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、まとめ

授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布さ

れるレジュメやプリントをファイルし、講義メモを添えて整理保存すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

参考図書

授業の中で適宜紹介します。

留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。毎回の授業の記録ファイルを最後に提出してもらいます。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の連携が図れる「外国語教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？ 本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 教授法の理論的背景(1)
3. 教授法の理論的背景(2)
4. 発表(1)「授業法」
5. 教授法の理論的背景(3)
6. 教授法の理論的背景(4)
7. 教授法の理論的背景(5)
8. 教授法の理論的背景(6)
9. 発表(2)「指導法」
10. 英語教師の資質と能力
11. 学習者の特質
12. 小中連携英語教育
13. プレゼンテーション
14. 評価
15. 発表(3)

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

項目・内容について下調べをしておくこと。テキストの該当章を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、プレゼンテーションを行う。評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育のフロンティア ―充実した実践を目指して― 青木昭六 ISBN978-4-905493-03-7

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（中高）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目 <キッズ・イングリッシュ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法 (中高)		13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
都賀 純/堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

授業の到達目標
 教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI (知性) とK (思いやり) の育成を目指す。

授業の概要
 教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法律
3. 教育課程の歴史(学習指導要領の変遷)
4. 教育課程の歴史(総合的な学習の時間の誕生)
5. 各学校種における教育課程(中・高)
6. 総合的な学習の時間の指導①
7. 総合的な学習の時間の指導②
8. 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
9. 教育課程の編成と評価
10. 学校種間の連携における教育課程の工夫
11. 地域社会の連携と総合的な学習の時間
12. 今日的な課題とカリキュラムマネジメント
13. 諸外国の教育課程(米・欧)、教育課程の模擬編成演習①
14. 諸外国の教育課程(中・韓)、教育課程の模擬編成演習②
15. 模擬編成した教育課程のプレゼンテーション、まとめ

授業の方法
 毎回レジメを配布し、授業を行う。

準備学修
 図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

課題・評価方法
 平常点 (30%)、定期試験 (70%)

欠席について
 事前、事後に届け出る

テキスト
 中学校学習指導要領解説 (総則編) 最新版
 中学校学習指導要領解説 (総合的な学習の時間編) 最新版

参考図書
 今、求められる力を高める総合的な学習の時間 (小) 文部科学省編 教育出版
 今、求められる力を高める総合的な学習の時間 (中) 文部科学省編 教育出版
 今、求められる力を高める総合的な学習の時間 (高) 文部科学省編 教育出版

留意事項
 配布したレジメや資料をファイルしておくこと

教員連絡先
 mhori@kaisei.ac.jp

資格科目 <キッズ・イングリッシュ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET	13851	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

授業の到達目標
 子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、情報機器や教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA (自立) とI (知性) を養う。

授業の概要
 学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外(総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育・人権教育
13. 模擬授業実践と考察(特別の教科・道徳)
14. 模擬授業実践と考察(特別活動)
15. 模擬授業による実践と考察・まとめ

授業の方法
 毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修
 中学校学習指導要領 (総則編) を読んでおくこと

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出る

テキスト
 文部科学省編 「中学校学習指導要領解説 (総則編)」 最新版

留意事項
 授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

教員連絡先
 mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教育研究会研究部会長 中学校長 神戸市教育委員会指導主事			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

1. 学校教育と公教育について
2. 教育行政の仕組みについて
3. 教育改革の歴史概要
4. 学校教育における法制度について
5. 学校の組織と運営について
6. 学校における教員の在り方について
7. 学校経営と教師力
8. 学校と地域の連携について
9. 学校教育の評価について
10. 変容する子どもの生活と教育的な課題
11. 安全教育・安全管理の取り組み
12. 学級経営の効果的な指導法について
13. 災害時に学校が果たす役割について
14. 学校における危機管理のあり方
15. 開かれた学校づくりについて・まとめ

授業の方法

レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

テキストなし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例

から学ぶ。

14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等	13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティー I（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して模擬授業を行う。さらに、今後の道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

- 1.はじめに・道徳教育の基礎理論
- 2.道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
- 3.道徳教育の歴史(戦後～現代)
なぜ「特別の教科」なのか
- 4.「特別の教科」道徳の目標について
- 5.道徳教育と教育課程の関連について
- 6.生徒の心理と道徳教育の関わり
- 7.学校における道徳教育指導体制
- 8.道徳教育の指導計画について
- 9.道徳教育指導法(内容項目の詳細)
- 10.道徳教育指導法(指導案の書き方)
- 11.道徳教育指導法(ロールプレイ)
- 12.保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
- 13.中学校・高等学校における道徳教育
- 14.諸外国の道徳教育事情
- 15.道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておく

こと。
幼いころの作文や文集があれば見ておくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説(特別の教科道徳編)」最新版

参考図書

私たちの道徳：中学校「特別の教科道徳」教科書1・2・3・年用

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	a	13806	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師		

授業の到達目標

TOEIC(R) Listening & Reading Testスコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須英単語と読解力)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティー I(知性)を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1. Unit 01 人物の動作と状態/表・用紙
2. Unit 02 疑問詞を使った疑問文/広告
3. Unit 03 日常場面での会話/品詞
4. Unit 04 アナウンス・ツアー/動詞
5. Unit 05 物の状態と位置/チャット
6. Unit 06 基本構文と応答の決まり文句/手紙・Eメール
7. Unit 07 電話での会話/代名詞・関係代名詞
8. Unit 08 ラジオ放送・宣伝/接続詞・前置詞
9. Unit 09 Yes/NO疑問文/ダブルパッセージ(2つの文書)
10. Unit 10 オフィスでの会話1/Part 5の復習
11. Unit 11 留守番電話/トリプルパッセージ(3つの文書)
12. Unit 12 オフィスでの会話2/Part 7の復習
13. Unit 13 Part 1とPart 2の復習/時制・代名詞・語彙問題
14. Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部/つなぎ言葉・文の挿入
15. 復習、期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC L&R Test(桐原書店)、TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ(朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	ET	14214	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人 / 惣谷 美智子	選択	2	私立・公立中学校、私立高等学校教員 神戸市教育委員会指導課指導主事、中学校長		

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA (自律)、I (知性)、及びE (倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習や教育実習について(1)～講義、発表
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認・まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認・まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の中でグループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

う。

準備学修

次回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。実際の中学校を訪問し随時研修を行うので、平素から服装等に配慮すること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp
mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等	14217	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	中学校教員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事		

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA (自律) でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK (思いやり・傾聴力) とI (知性) 状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導の関連
3. 教育課程と生徒指導(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導の関わり
6. 生徒の心理分析と理解の方法
7. 学校における生徒指導体制を学ぶ(実際の中学での見学体験)
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導について
12. 課題別生徒指導の考察
13. 生徒指導に関する法制度について
14. 生徒指導短縮事例研究(前半)
15. 生徒指導短縮事例研究(後半)、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

13歳のハローワーク(村上龍著) 教職関係、を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要」最新版

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。臨地研修として、1回は近隣の中学校を訪問し見学する予定です。平素から服装等に配慮すること

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究 (中等)	教職中	14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人 / 吉野 美智子	選択	1	神戸市教育委員会指導課教育実習担当主事、中学校長		

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA (自律)、I (知性)、及びE (倫理) を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習事前指導①
2. 教育実習事前指導②
3. 教育実習事前指導③
4. 教育実習事前指導④
5. 教育実習事前指導⑤
6. 教育実習事前指導⑥
7. 教育実習事後指導①
8. 教育実習事後指導②

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点 (100点満点) は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』最新版
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』最新版
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎回の授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp
 myosino@kaisei.ac.jp